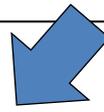


職員による自己評価

- A環境面
 - 利用定員とスペースの関係は適切と考えている。
 - バリアフリーは、現利用者に影響が出ていない。
- B児童への支援内容
 - 活動プログラム・療育活動が固定化しないように工夫をし、自信を持って行えている。
 - 日々のミーティングで支援の内容・役割を打ち合わせして、共有・確認している。
 - 医療・児発センターとのカンファレンスができていない。
- C関係機関との連携
 - 連携とは、どこの機関と何をすべきか（その意味・制度等）分からない者が多い。
 - 各学校との情報共有を行い、個別・集団での支援に役立っている。
- D保護者への説明責任・信頼関係
 - 保護者への説明・苦情等、丁寧な説明・適切な対応を心掛けている。
- E非常対応
 - 定期的な避難訓練を行い、適切な行動ができるよう心掛けている。
 - ヒヤリハット・事故・怪我報告書用いて、日々に潜む危険性を共有している。
 - 虐待についても意識が高まってきている。

保護者による評価

- A環境面
 - 活動スペース・職員の配置・専門性については、ご満足いただけている。
 - バリアフリー・トイレには、既存の建物のため不満に思う児童がいる。
- B児童への支援内容
 - サービス・プログラムともに支持をいただけている。
 - 保護者への説明・児童への配慮にも良い評価をいただいている。
- C事業所からの情報発信
 - お便り・ホームページなどで情報は発信しているものの、コロナ禍のなかで保護者会・マニュアルの周知等行えていない部分もある。
- D非常対応
 - 避難訓練の様子をお便りに載せる等した結果として保護者の方々の理解を得られ始めたが、各種マニュアルがなかなか伝わっていない。
- E満足度
 - ほぼ満足していただいているが、慢心せず「子どもありき」の姿勢を大切にしたい。



事業所内での分析

- 【共通点】
 - 事業所での活動プログラム等は、保護者・職員共に固定化がなく充実していると判断している。
 - 保護者への説明等は、子どもの様子も含めしっかり伝わっている。
- 【相違点】
 - マニュアル等の周知をしっかりと行わなければならない。
 - 保護者には助言や支援に対して支持をいただいているが、ペアレントトレーニングについて、スタッフの理解度を深めていかなければならない。
 - スタッフ配置について保護者は「良い」と感じているが、スタッフ側は 50%の結果。

分析・検討してみても…

事業所の強み

- 訓練室等、スペースが十分にとれ環境面が満たされている。
- 活動プログラムの固定化が起きないように工夫に取り組んでいる。
- 子どもの様子・配慮すべき点等を共有し、保護者へもしっかりと伝える事ができている。
- 子どもたちへの活動プログラムにすべてのスタッフが自信をもって行えている。

事業所の改善点

- 自己評価で「スタッフ配置・専門性」が割れている。勉強して、力をつけよう。
- 個別に支援会議を行っていきたい。
- 教材研究・発表の時間を作りたい。
- ガイドライン周知の他、療育について職員一人ひとりの意識を高める。
- 就労先の見学・他施設での研修を行い、子どもたちのライフサイクルを知る機会をつくる。

事業所の改善への取り組み

- あらゆる情報を含め、整理整頓を行う。
- 何でも話し、相談していこう。
- 事業所の改善点について、「まずやってみよう」から始める。
- マニュアルを知る・周知も含め機会を増やす。
- 地域資源を活用した活動を大切に、地域からの理解・交流を深める。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

今回の自己評価は、若いスタッフたちの心を大いに奮い立たせる良い機会になりました。保護者のニーズをしっかりと受け取ること、送迎時の短い時間での情報のやり取り、コミュニケーションの大切さ、活動プログラムを「満足」と評価された嬉しさ、それらが自己評価により客観的に自身のなかで整理され、目指す所がはっきりとしてきたのではないのでしょうか。「選んでいただいている保護者の方々」・「集まってくれた子どもたち」・「クリームソーダ自慢の若手スタッフ」と共により良い事業所を目指して行こうと思います。